

城跡遺跡

もの言わぬ
歴史の語り部



ほりのじょうし 1. 堀之城跡

- 所在地 熊野町城之堀区字堀ノ城
- 城郭の形態 直線状連郭式山城
- 築城の時代 中世

嵩山（城山）の南麓、集落を見下ろす位置にあり、芸藩通誌に「嵩山城の出丸にてもあらんか」と紹介されています。

城郭は、本丸から南に向けて直線状に4～5の郭が並び、現在は堀切が2カ所残り、農道として利用されています。しかし、昭和の初め本丸の井戸跡を開墾で埋めてしまったことや、昭和55年に北部農道工事のため本丸を2/3削り取ってしまったのは、残念なことです。

付近には堀之池、堀、上ノ土居など、城に関係があると思われる地名や、落ち

矢、ヤヤズ等の合戦の伝説に由来する地名が多く残っており、ありし日の山城の姿をしのぶことができます。



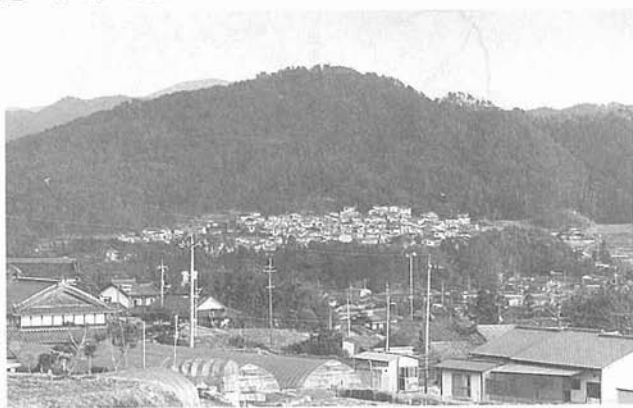
とぎじょうし とぎじょう 2. 土岐城跡（登岐城）

- 所在地 熊野町萩原区字庄賀山
- 城郭の形態 直線状連郭式山城
- 築城の時代 中世

土岐城山（418m）は熊野盆地の中心に位置するなだらかな山で、古くから要衝の地であったと思われます。またこの城山は、太古には祭祀、中世には山城、江戸期にはのろし山や雨乞いなど、地元の人たちに愛されてきたふるさとの山です。土岐城はこの山の頂上に築かれ、芸藩通誌には「土岐城、同村にあり、此城山の麓に、別に四貫分とよぶ地あり、土岐の外城なるべし」と紹介されています。城主や正確な時代などはまだ不明で、今後

の調査に期待がかけられています。

現在も、頂上の本丸跡から東北側に100mほど下ったところに、古井戸が残っており、泉がこんこんと湧き出しています。



さかきもりじょうし
4. 榊森城跡



●所在地 熊野町新宮
区字坂ノ美堂 ●築城の
時代 中世(室町時代)

町の最北端に位置する城で、本丸を中心に東西に一つつつ郭が形成され、その下に一段の帯郭が造られています。山側にあたる北面に堀切を造って防禦を固くしており、近くには井戸跡らしい遺構が残っています。

どうじょういせき
6. 道上遺跡



●所在地 熊野町萩原
区字大原 ●時代 縄文
時代

道上川南側の段丘上に広がる縄文時代の遺跡です。平成3年に試掘調査を行って、数多くの資料が出土しました。資料の中には多数の石鏝をはじめ、石錐(石のきり)など貴重なものがあります。

ひがしふくはらいせき
8. 東深原遺跡(包含地)



●所在地 熊野町新宮
区字東深原 ●時代 旧
石器時代晩期～縄文時
代創草期 ●出土品 局
部磨製石斧、磨製石斧、
凹石、磨石

昭和53年、苗木移植のため植木斜面を約50cm掘り下げた所から、偶然2個の局部磨製石器が発見されました。調査の結果、周辺一帯が石器等の包含地と分かりました。出土品は熊野町郷土資料館に展示されています。

やなぎのもといせき
10. 柳ノ本遺跡



●所在地 熊野町平谷
区字柳ノ本

熊野トンネル近くの丘に広がる縄文時代の遺跡です。平成3年に試掘調査が行われ、黒曜石や安山岩の石鏝や剝片が多数出土し、道上遺跡とともに本格的な調査が期待されています。

し かん ぼじょうし
5. 四貫分城跡



●所在地 熊野町萩原
区里地 ●築城の時代
中世

土岐城山の南端に位置し、土岐城の外城とも考えられています。山側に2カ所の堀切を造り、西側は自然の崖を利用し、東側には多くの郭を配した堅固な防禦としています。現在は、龍王神社境内となっています。

おかいせき
7. 岡遺跡(住居跡)



●所在地 熊野町初神
区字岡 ●時代 弥生時
代後期 ●出土品 弥生
時代後期の土器片(古
式土師器、サヌカイト
石片)

昭和56年、耕作中に住居跡と土器片が発見され、昭和57年に試掘を行って、弥生時代後期の住居跡であることが確認されました。南東の丘からも土器片が採取できるため、付近に同時代の遺跡が散在すると思われる。

おおみずみなじいせき
9. 大水南地遺跡



●所在地 熊野町出来
区字大水南地 ●時代
弥生時代中期 ●出土品
弥生式土器

現在の市街地にほど近く、南向きで雨当たりがよく水の便もよい地区にあります。弥生時代中期の土器が多数出土しているため、弥生人の生活に適した地域だったと思われる、今後、相当数の遺跡が確認されると考えられます。

ぼらいせき
11. ハグイ原遺跡



●所在地 熊野町呉地
区字ハグイ原

呉地ダムの工事を行ったとき、旧石器時代から縄文時代の初めころ使用されたと思われる有茎尖頭器が出土しました。この他、土器片などの出土の報告もあり、今後の調査に期待がかかる遺跡です。